

社会資本総合整備計画
小幡地域における観光資源を活用した地域活性化(第2期)
【平成27～31年度】

- ・甘楽町小幡地区都市再生整備計画事業 第2期
【平成27～31年度】

事後評価シート

令和2年7月

群馬県甘楽町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	甘楽町		地区名	小幡地域における観光資源を活用した地域活性化(第2期)						
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	平成31年度(令和元年度)		交付対象事業費	278百万円(A:278百万円)						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	公園(織田公園整備)、地域生活基盤施設(案内板・情報板等整備、小幡公園修景施設整備)、高質空間形成施設(楽山園周辺道路電柱移設・電線地中化・照明施設整備、町屋地区電柱移設・電線地中化・照明施設整備)、既存建造物活用事業(旧甘楽社小幡組倉庫保存・修理、高田邸保存・修理)									
		B関連社会資本整備事業		-									
		C効果促進事業		-									
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由		目標、指標、数値目標への影響							
		A基幹事業	都市再生整備計画事業	高質空間形成施設(楽山園周辺道路電柱移設・電線地中化・照明施設整備、町屋地区電柱移設・電線地中化・照明施設整備)、既存建造物活用事業(旧甘楽社小幡組倉庫保存・修理、高田邸保存・修理)		・事業実施時期の変更(高質空間形成施設) ・耐震工事が不要となったため(旧甘楽社小幡組倉庫保存・修理) ・関係者協議不調(高田邸保存・修理)		影響なし(他施設で環境の担保が可能であること、回遊イベントに影響がないため等による)					
		B関連社会資本整備事業		-		-		-					
		C効果促進事業		-		-		-					
		新たに追加した事業	A基幹事業	都市再生整備計画事業	-		-		-				
			B関連社会資本整備事業		-		-		-				
	C効果促進事業			-		-		-					
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	国指定名勝楽山園入園者数	人/年	56,000	H26	56,500	H31	-	28,150	×	あり	評価値は、イベント実施時期の変更、天候不順、コロナウイルスの影響により、目標値に達しなかった。が、平成28年度以降減少傾向にあるため、×とした。第1期事業に続く、新たな織田公園の整備等を広く周知できなかったため、目標達成に貢献できなかったことも一因と考える。なお、指標は、今回の事業の効果を直接的に反映しにくいものであった。また、従前値がピーク時数値に近く、結果として目標値も過大であった。	令和5年3月
	指標2	駅からハイキング来訪者数	人/年	0	H26	300 (1ヶ月当たり25人)	H31	-	137 (1ヶ月当たり45.6人)	△	あり	評価時は3ヶ月の実施で目標値を上回らなかったが、1ヶ月当たりの来訪者数は45.6人で、目標値を12で除した25人を上回っている。このため、参考値として併記した。整備区域内に点在する歴史文化遺産を段階的に整備・保全することで、整備区域内の回遊性の向上に間接的に寄与した。	令和5年3月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	観光イベント来場者数	人	50,696	H26	/	/	-	54,313	/	/	整備区域内の歴史文化遺産の整備・保存により、イベント期間の来場者数の増加に間接的に貢献し、加えて案内板・情報板等の整備により、整備区域内の回遊性の向上に貢献した。さらに、官民連携による観光イベントの運営・実施により、交流人口の増加、回遊性の創出に寄与した。	令和5年3月	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画事業(第1期・第2期)や他事業を通じた観光資源(歴史文化遺産)の整備・保存により、県内外から多数の来訪者が整備区域内を訪れている。 観光施設や観光イベントの来場者からは、「また来たい」、「町内を周遊してみたい」、「古いまち並みに一見の価値がある」といった意見が挙げられるとともに、道の駅甘楽やこんにやくパーク等での地元特産品の提供やまち並みや施設の保存により、当地域の歴史・文化、風土の発見・認識につながるという意見も多数挙げられていた。 事業による整備効果とともに、官民連携して地域の歴史文化資源を維持・保存していく姿勢や活動が高評価につながっているように伺えた。 												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	住民参加プロセス	本地区内では、甘楽町観光協会などによる多様なイベント等が実施され、これらの運営・管理は官民協働参加方式をとり、継続的に町の運営・管理を行う活動が推進されている。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も官民連携によるイベント等の実施を継続し、交流のまちづくりによる地域の活性化につなげていく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	本地区内の雄川堰を、自治会の輪番制により継続的に清掃活動を行っている。また、ボランティア活動や官民協働により、道路のゴミ拾い、公園の草刈りや花木の植栽等、美化・景観維持等のための住民参加活動が継続的に推進されている。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も住民に美化・景観維持等を通じてまちづくりに関わっていただく体制の継続を図る。活動メンバーの高齢化が懸念されることから、活動収入の確保によるマンネリ化の払拭とモチベーションの維持等、将来を見据えた取組みを検討する。					

様式2-2 地区の概要(基幹事業)

社会資本総合整備計画「小幡地域における観光資源を活用した地域活性化(第2期)」の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度
群馬県甘楽町小幡は、織田氏(織田信長の二男信雄が藩祖)の統治時代に築かれた武家屋敷をはじめ昭和初期までの建造物が多く現存し、市街地の区画は藩政時代の町割りとはほぼ重なり、旧城郭内や用水に利用された石積みなどの調和により城下町としての風情を色濃く残している。 甘楽町はこうした歴史文化遺産を活かしたまちづくりを推進し観光の振興により地域の活性化を図っている。 ・文化財(歴史的風致形成建造物)の活用を図る。 ・来訪者の回遊性を高めるため案内板・情報板等の整備充実を図る。	国指定名勝楽山園入園者数	単位:人/年	56,000	H26	56,500	H31	28,150	H31
	駅からハイキング来訪者数	単位:人/年	0	H26	300 (1ヶ月当たり25人)	H31	137 (1ヶ月当たり45.6人)	H31
	観光イベント来場者数	単位:人	50,696	H26	-	-	54,313	H31



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期・第2期を通じて段階的に歴史文化遺産の整備・保全を実施しているが、交流人口の増加につがっていない。これら施設や地域の特性・セールスポイントを広く周知する必要がある。 ・回遊イベントを含む観光イベントの来場者数は増加したものの、平成28年度をピークに減少していること、通年の集客(交流人口)が年々減少していることから、さらなる施設のPRや年間を通じた促進策およびリピーターの拡充が求められる。 ・各歴史文化遺産間の距離が離れていることから、徒歩での回遊には限度があることおよび住民の利便性向上のため、公共交通(巡回バス)等の整備も検討する必要がある。 ・歴史的まち並みの景観を阻害している電線類が存在する。電線類の移設・地中化等の事業の実施が望まれる。 ・歴史文化遺産の開放のため、事業の目的・必要性を住民等に周知し、理解を得るように努めるとともに、既に開放した歴史文化遺産について魅力発信を継続する必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化遺産のさらなる整備・保全により交流人口の増加に寄与(織田公公園内林内整備、楽山園内照明施設整備等) ・歴史文化遺産の周知・PR活動のさらなる実施、年間を通じた集客促進活動の検討 ・近隣市町村(の観光資源)との広域的な連携による認知促進・PR活動にて、交流人口のボトムアップに寄与(織田家関連・絹遺産関連等、広域連携を図る中で地域アピール事業を推進) ・関係人口の増加により、町に興味・関心を寄せる地域外人口の拡充を図る。(例:友好都市東京都北区との関係性を意識した取組みの展開) ・リピーターの拡充(例:食事処や土産物販売の拡充) ・歴史的資源の「限定的」な活用により話題性を創出・SNS等で拡散する等、情報戦略とあわせた事業展開 ・回遊しやすくなる環境整備(施設整備・案内誘導施設整備)を継続実施、回遊手段(レンタサイクル、公共交通網等)の整備(新型モビリティ等の話題性のある事業の検討も含む) ・歴史的まち並みの景観を阻害している電線類の移設・架空線の除去・地中化の実現と歴史的まち並み保全促進活動の実施 ・歴史文化遺産の一般開放に向けた整備(耐震改修、補修、保全等)と促進活動

様式2-2 地区の概要(関連社会資本整備事業、効果促進事業)

社会資本総合整備計画「小幡地域における観光資源を活用した地域活性化(第2期)」の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
<p>群馬県甘楽町小幡は、織田氏(織田信長の二男信雄が藩祖)の統治時代に築かれた武家屋敷をはじめ昭和初期までの建造物が多く現存し、市街地の区画は藩政時代の町割りとはほぼ重なっており、旧城郭内や用水に利用された石積みなどの調和により城下町としての風情を色濃く残している。 甘楽町はこうした歴史文化遺産を活かしたまちづくりを推進し観光の振興により地域の活性化を図っている。</p> <p>・文化財(歴史的風致形成建造物)の活用を図る。 ・来訪者の回遊性を高めるため案内板・情報板等の整備充実を図る。</p>	国指定名勝楽山園入園者数	単位:人/年	56,000	H26	56,500	H31	28,150	H31
	駅からハイキング来訪者数	単位:人/年	0	H26	300 (1ヶ月当たり25人)	H31	137 (1ヶ月当たり45.6人)	H31
	観光イベント来場者数	単位:人	50,696	H26	—	—	54,313	H31

